厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

神奈川県におけるがん対策の進捗評価と国との連携方法の検討

研究分担者　片山　佳代子　神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員

本研究は、患者への積極的な情報提供の在り方、ピアサポートの活用などの実態を明らかにしがん医療体制の充実を図ると共に、次期がん対策推進基本計画に向けた新たな指標及び評価方法の開発のため神奈川県がん対策推進審議会と連携し、がん登録データから数理モデルによる罹患率・死亡率の予測を活用して施策の優先度の検討や、他の都道府県との連携などの発展性についての提言を行うことを目指した。患者体験調査データ解析から、情報提供やピアサポートの在り方に「性差」という概念を入れて取り組む必要があることと、地域の実情に合わせたがん対策を策定するためには専門家との連携が不可欠であることを明らかにした。

A.　研究目的

本研究は、次期がん対策推進基本計画に向けた新たな指標及び評価方法の開発のため、現行のがん対策を評価するため、①患者体験調査や既存指標の調査結果に基づくがん対策の現況把握と課題の導出を行い、特に患者らへの積極的な情報提供の在り方、ピアサポートの活用などの実態を明らかにし患者の医療体験の充実を図るとともに、②実態データを基にした数理モデルで代表的施策の重要性や効果を予測するために必要な事項の洗い出しと情報収集を行うことを目的とする。具体的には、神奈川県をモデルに、がん登録データから数理モデルによる罹患率・死亡率の予測を活用して施策の優先度の検討や、他の都道府県との連携などの発展性についての提言を行うことを目指した。

B.　研究方法

①患者体験調査データを用いて、患者の医療満足度が情報の入手時期やその方法によってどのように異なるのか、またピアサポートの利用率などを解析することで今後の患者支援や情報提供の在り方を検討することとした。特に、患者支援のおいては先行研究等で、性差があることが報告されている。そこで、本件でもピアサポートの利用に男女差があるのか否か、また男性がん患者の相談支援についてフォーカスグループインタビュー（FGI）を行い、データ解析だけでは不明だった、男性患者のアンメットニーズを明らかにすることとした。

②県のがん対策推進計画の進捗管理が客観的な指標やロジックモデルなどによる可視化ができていない。こうした事例を研究班で共有し、その進捗評価の改善案を示した上で、研究班員らと、行政担当者との実務的レベルでの連携の在り方を検討することとした。

C.　研究結果

①患者体験調査結果から、ピアサポートが何か、知っていると回答した者のうち、利用したことがないと回答した者に、利用しなかった理由を尋ねた。その結果、「相談したいことがなかった」のは男性の方が多く（p=0.03）、「プライバシーの観点から行きづらかった」のは女性の方が多く（p<0.000）「自分の相談を受け止めてもらえるか自信がなかった」のも女性の方が多かった（p<0.001）。患者体験調査の大きな最終アウトカムである自分のがん治療の総合的納得度（10 点満点）に、ピアサポートを知っている（8.02 点）といない（7.91 点）とでは、その平均値に差があることも亜紀らかったとなった（p=0.041）。

都道府県がん診療連携拠点病院でピアサポートを実施しているところは、48%であった。

FGI は、神奈川県がん患者連合団体（天野慎介代表、長谷川一男事務局長）に依頼し、少人数の男性がん患者の方で、我々の FGI の主旨を理解し、同意してくれる方を募った結果、5 名の方から参加同意を得た。FGI を実施するに際しては、神奈川県立がんセンターの IRB の承認を得て、本人から書面の同意書を提出していただき、参加していただいた。

②数理モデルを用いて科学的に算出した数値のみを県の担当者に伝えるだけではなく、現場のがん対策担当者（行政）と一緒に議論し、対策の糸口となるような解釈も含めて話し合いをしていくことで、より効果的で科学的根拠に基づいたがん対策を講じることが可能となることが示唆された。

D.　考察

患者体験調査から見えてきた患者や家族への

情報提供の１つとして、ピアサポートの在り方を検討することが重要であることがわかった。その認知度は、まだ低く、まずは知ってもらうための広報や、効果を含めた情報発信が必須といえる。男女差についても「相談したいことがない」、と回答した男性の結果は先行研究と一致しており、女性は日常生活の心配ごとから治療全般、精神的なサポートまで様々な事柄について相談を欲していることと対照的である。これは、男性が相談したいことがない≠困っていない、ということではないことを示唆している。このことについて、FGIで実際の男性の本音部分を拝聴したところ、男性特有の性の固定概念やプレッシャーを感じていることが示唆された。これは 2019 年の Lean in Tokyo 国際男性デー調査で、「男だから「という固定概念やプレッシャーにより、78%の男性が生きづらさを感じると回答していることを鑑みると、男性がん患者がそう簡単に他者や支援センター等で、弱みをみせづらいことを裏付ける結果であった。こうした性差を加味した相談支援の在り方を今後検討していく必要があると思われる。

②がん対策を担う行政の担当者は、他県のがん対策指標に関する進捗評価や、アップデートに研究者の視点をどのくらい参考にしているのか、がん対策進捗評価の高い自治体との情報収集・意見交換の場が必要である。

E. 結論

相談支援の在り方に「性差」という概念を入れて取り組む必要がある。

地域の実情に合わせたがん対策を策定するためには専門家との連携が不可欠である。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Katayama K, Ishikawa D, Miyagi Y, Takemiya S, Okamoto N, Ogawa A. Qualitative analysis of cancer telephone consultations: Differences in the counseling needs of Japanese men and women.Patient Education and Counseling (PEC):2555-2564,4, 2020.

2. Narimatsu H, Nakamura S, Sakaguchi M, Katayama K. Future patient incidence in hemato-oncology: a study using data from cancer registries in Japan. Risk Management and Healthcare Policy:2407-2414,10, 2020.

3. Nemoto D, Yokose T, Katayama K, Murakami S, Kato T, Saito H, Suzuki M, Eriguchi D, Samejima J, Nagashima T, Ito H, Yamada K, Nakayama H, Masuda M. Tissue surface area and tumor cell count affect the success rate of the Oncomine Dx Target Test in the analysis of biopsy tissue samples. Thoracic Cancer 12:194-200,10, 2020.

4. Watanabe K, Katayama K, Yoshioka T, Narimatsu H. Impact of individual background on the unmet needs of cancer survivors and caregivers - a mixed-methods analysis. BMC Cancer. 2020 Mar 30;20(1):263. doi: 10.1186/s12885-020-06732-5.

5. Isaka T, Nakayama, H, Ito H, Yokose T, Katayama K, Yamada K, Masuda M. Efficacy of platinum-based adjuvant chemotherapy on prognosis of pathological stage II/III lung adenocarcinoma based on EGFR mutation status: a propensity score matching analysis. Mol Diagn Ther. 2019 Oct;23(5):657-665. doi: 10.1007/s40291-019-00419-9.2019.

6. Suketomo YH, Katanoda K, Kawamura Y, Katayama K, et al., Children's Knowledge of Cancer Prevention and Perceptions of Cancer Patients: Comparison Before and After Cancer Education with the Presence of Visiting Lecturer -Guided Class. J Can Education. 2019 Dec;34(6):1059-1066. doi:10.1007/s13187-018-1408-7.

7. 齊藤真美、松田美香、髙橋將人、片山佳代子、阪口昌彦、田中里奈、松坂方士. 北海道と神奈川県における乳がんの罹患数の将来推計と医療施設および医療従事者の配置の検討. JACR Monograph No.24. 2019；24-35.

2. 学会発表

Cynthia de Luise, Haoqian Chen, Edward Nonnenmacher, Naonobu Sugiyama, Ryota Hase, Mitsuyo Kinjo, Daisuke Suzuki, Kayoko Katayama, Takakazu Higuchi, Sadao Jinno, Yoshiya Tanaka, Toshitaka Morishima, and Soko Setoguchi . Validity of Claims-based Definitions for Rheumatoid Arthritis, Selected Cancers And Infectious Diseases In Japan: Results From Validate-J Study. 35th ICPE Meeting Aug 24-28, 2019(Philadelphia)

Cynthia de Luise, Haoqian Chen, Edward Nonnenmacher, Naonobu Sugiyama, Ryota Hase, Mitsuyo Kinjo, Daisuke Suzuki, Kayoko Katayama, Takakazu Higuchi, Sadao Jinno, Yoshiya Tanaka, Toshitaka Morishima, and Soko Setoguchi. Validity Of Claims-based

Definitions For Rheumatoid Arthritis, Selected Cancers And Infectious Diseases In Japan: Results From Validate-J StudyⅡ. ISPE's 12th Asian Conference on Pharmacoepidemiology 2020(Japan)

Ito Y, Kanoh A, Yuasa M, Saran U, Satyajit Rout, Ito H, Katayama K, Katanoda K, Matsuda T, Saruki N. Challenge in translating information about cancer survival to general people: sharing messages for cancer survivors using statistics of conditional survival. NAACCR/IACR Combined Annual Conference 2019. (Canada)

Katayama K, Ishikawa D, Sakaguchi M. Cancer education support project: Spread of cancer education in Japan based on web search. 12th European Public Health Conference (November 2019 Marseille)

Katayama K, Sato Asai M, Ougihara A, Suketomo H. Development and validation of a Peer Education program for cervical cancer prevention. EUROGIN 2019 International multidisciplinary HPV congress. Free-Communication session ＃0097 36-Health education.

国内学会発表

1. 助友裕子、片山佳代子、扇原淳、佐藤美紀子. 大学生のヘルスリテラシーとがん知識との関連（第 5 報）ピア学生の養成プロセス. 第 78 回日本公衆衛生学会総会（高知）2019.

2. 片山佳代子、助友裕子、扇原淳、佐藤美紀子. 大学生のヘルスリテラシーと　がんの知識との関連（第 6 報）ピア教育の効果検証. 第 78 回日本公衆衛生学会総会（高知）2019.

3. 鈴木大介、王鴻、周思宇、扇原淳、助友裕子、片山佳代子. 大学生のヘルスリテラシーとがんの知識との関連（第 7 報）中国大学生による検討. 第 78 回日本公衆衛生学会総会（高知）2019.

4. 石川 大介、片山 佳代子. がん電話相談の質的分析に基づいたテキストマイニングによる可視化. 第 39 回 医療情報学連合大会第 20 回日本医療情報学会学術大会（千葉幕張メッセ）2019.

5. 片山佳代子.　第 78 回日本公衆衛生学会総会示説発表　健康教育セッション座長（高知市）2019 年 10 月.

6. 片山佳代子. 第 39 回日本思春期学会学術集会. ワークショップ 3 思春期以降のがん教育の在り方を考える. 3-3:「大学生を対象とした Peer Education による子宮頸がん予防教育プログラムの開発とその評価」金沢，2020 年 9 月.

7. 片山佳代子、宮城洋平、石川大介、小川朝生. Analysis of Cancer Telephone Counseling by Mixed Methods: Differences in Counseling Needs between Japanese Men and Women. 第 58 回日本癌治療学会学術集会，京都，2020 年.

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし